

- 小学校5年 Lesson9「外国の料理を紹介しよう！」8時間
- 異文化理解を深め、異文化への興味・関心を持たせるための単元計画の工夫とその効果

1 実践内容

(1) 手だて

① 異文化への興味や関心を持たせるための工夫

単元の初めに、様々な国の伝統料理について紹介した。社会科の授業で、国の名前や国旗について学習したので、国旗や料理の写真を見せたり、料理から国を当てるクイズをしたりして楽しみながら進めていった。また、様々な国の料理について書かれている本を人数分用意し、全員が手にとって見られるようにして読ませ、人気があるものや気に入ったものを交流活動で扱っていった。そうすることで、最後まで意欲を持って活動に取り組ませていきたいと考えた。

② コミュニケーション活動への意欲を高める工夫

単元の終わりには、店員や客になりきって料理を紹介したり注文したりするロールプレイを行った。実際に外国に行った時を想定し、より自然なコミュニケーション場面や表現を提示することにより、意味のある関わりを持たせていった。単元の初めには、最後に行う交流活動についても、実際にやって見せながら紹介した。そうすることで、登場人物や場面設定、英語表現を知り、単元全体を見通すことができ、一つ一つの活動に共通の目標を持たせていきたいと考えた。

③ 外国の音声表現に慣れ親しませるための工夫

単元を通して児童は、普段食べている料理が外国から来たものだけということや、世界には自分の知らない料理があることに気付き驚くだろうと考えた。また、外国語を言ったり聞いたりすることで、日本語と英語との音声の違いにも気付くことができるだろうと考えた。

様々なゲーム活動を行ったり、段階を経て慣れ親しむ活動を行ったりすることを通して、様々な外国語の表現方法を知らせ、外国には日本とは違う言葉や料理があることに気付かせていくことができると考えた。

④ 食習慣の違いに気付かせるための工夫

外国には様々な食習慣がある。料理の食べ方や食べる順番、扱う食器や扱い方など国によって違いがあることがある。水が有料になる国も多く、日本との違いも分かりやすい。ここでは、児童が興味のある国についてどんな食習慣があるのかをパソコンで調べ、交流し、国によってどんな違いや共通点があるのかを話し合い、実際にやってみた。そうすることで、その違いを実感させ、さらに興味を広げさせていきたいと考えた。

時	活動内容	観点
1	○ 外国の様々な料理を知る。(様々な料理を知る・国当てクイズ)	気付き
2	○ 外来語の英語での音声を知る。(キーワードゲーム)	慣れ親しみ
3	○ 交流活動について知る。(登場人物・場面設定・表現の仕方) ○ いろいろな国の名前や料理の言い方に慣れる。(ミッシングゲーム・チャンツ)	気付き 慣れ親しみ
4	○ 欲しい物の尋ね方・答え方に慣れる。(チャンツ・マッチングゲーム・かるたゲーム)	慣れ親しみ
5	○ 交流活動の工夫を話し合う。(ロールプレイ・教師とALTのロールプレイを見て話し合う。)	コミュニケーション
6	○ 自分の紹介したい国や料理についてパソコンを使って調べる。	気付き
7	(材料や調理の仕方について・紹介する国の食習慣について)	
8	○ 様々な国のレストランでの店員と客のやり取りをする。 (お気に入りの料理を紹介する。・料理やドリンクを注文する。)	コミュニケーション

(2) 結果

【授業後の振り返りカードの記述の分析】

毎時間、授業の終わりに振り返りカードに感想を記述させた。

初めに、外国の料理を紹介する本を読み、食べてみたい料理をランキング付けする活動を行ったり、外国のレストランで料理を作る様子を動画で見る活動を行ったりした。ここでは、異文化に興味を示し、意欲的に学ぼうとする児童や、そのよさや日本との違いも考えることができる児童の姿が見られた。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ 世界の料理を知って、実際にその国に行って食べてみたいと思った。特にメキシコのタコスを食べてみたい。・ 日本にもある料理は、実は外国の料理であることを初めて知った。また、どのように伝わってきたのかを調べてみたい。 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 外国の料理は日本にもあるけど、色や形、大きさが違っていた。・ ビビンバを食べる時に、石鍋で焦がしながらかき混ぜていた。パエリアは大きな鍋で作っていた。日本とは、作り方や見た目が違っていた。 |

次に、単元の最後に行うコミュニケーション活動についてALTと担任が実際に行った時の動画を流して説明した。児童は、実際に行うコミュニケーション活動の様子を見ることで、どのような場面で、どのような英語表現を話せるようになっていけばよいかのかが分かり、その後の慣れ親しみの活動に意欲をもって取り組むことができていた。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ イタリアのレストランで客とウェイターが注文や料理の紹介をしている所を見て、外国の人とのコミュニケーションの取り方が分かった。・ 外国の色々な国で料理を紹介する言葉や仕方が変わってくるのかという疑問を持った。もっと知りたい。 |
|--|

外国の表現に慣れ親しむ活動では、リズムに合わせて言ったり、ゲームの中で表現を使ったりして楽しみながら活動することができた。さらに、日本語との違いにも気付くことができる児童の記述も見られた。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ リズムに合わせて言ったり、ウェイター役と客役に分かれて何度も言いあったりしたから、自然と言えるようになっていた。・ じゃんけんが勝った時は、自分のほしいカードを言って、負けた時は何がほしいかを尋ねた。ゲームで学べるから面白かった。・ ビビンバの言い方が違っていて難しかった。いろいろな食べ物の言い方が日本語とは違っていた。 |
|---|

さらに、日本との食文化の違いに気付かせるため、コミュニケーション活動をした後に、一度、話し合いの場を設けた。ここでは、食事作法や使う食材、調理の仕方についても紹介すると、より外国のレストランに近づくことを確認し、さらに食文化を調べて交流活動を行った。その後に行ったアンケートでは、外国の食文化を知った時の驚きや、実際に行ってみた時の喜びが表れた。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・ イタリアのスパゲティはフォークとスプーンを使って食べ、インドカレーは手で食べた。国によって食べ方が違うから驚いた。・ 韓国料理は皿を持たずに食べ、アメリカのステーキはフォークとナイフを使って食べた。いろいろな国の食文化を知れてよかった。・ 韓国と中国はお皿を持ち上げない。マレーシアとインドは手を使って食べる。これでこれらの国に行っても外国の料理を食べられる。 |
|--|

【単元終了後のアンケート結果の分析】

授業後、単元前と同様のアンケートを行ったところ、外国の文化を知る活動を楽しんでいる児童が増えたことが分かった。その理由として、外国の文化を知る活動が楽しかったことや、新たな発見を通してさらに興味を持つことができたことが要因だということが分かった。外国に興味を持ち、言ってみようと思ったり、さらに食文化とは違う分野でも知りたいと思う児童の記述も見られた。

2 成果・課題

異文化を知り、体験する活動を行うことは、文化の違いに気づかせていくことや、文化への興味や関心を持たせることに有効であったと言える。また、単元の初めに、コミュニケーション活動について確認したり、楽しんで慣れ親しませる工夫を行ったりしたことも児童の意欲的な学びにつながったと考えられる。児童の主体的な学びは、教師が授業を意図的に工夫することによって表れるということが分かった。

しかし、異文化を理解する活動を行うことによって、日本の良さに気付く児童はみられなかった。実際に外国へ行き、外国での生活の不自由さを実感したり、遠く日本から離れ日本について考えたりするようなことがなければ、日本の良さを感じるというところまでは難しいのではないかと考える。また、外国を知る活動だけでなく初めて知った外国の文化のことで日本の文化とを比べる活動を行ってみると違う結果が表れたのかもしれない。さらに、服装や交通などの文化など、違う分野でも異文化を知る活動を継続的に行うことで、結果が変わったようにも考えられる。外国の良さや自国の良さに気付かせるための工夫を今後も継続して行っていきたい。